

第4回（仮称）

第3次都心まちづくり計画検討会

議 事 録

日 時：2025年6月30日（月）午前10時開会
場 所：札幌市民交流プラザ 2階 SCARTSスタジオ1・2

1. 開 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

定刻となりましたので、ただいまから、第4回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会を開催いたします。

本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度も事務局を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課の伊関と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、札幌市まちづくり政策局政策推進担当局長の山内よりご挨拶を申し上げます。

○山内政策推進担当局長

皆様、おはようございます。この4月に札幌市まちづくり政策局政策推進担当局長を拝命しました山内でございます。よろしくお願いいたします。

先に、自己紹介がてらお話しさせていただきます。

私は、五、六年前にこの都心まちづくり推進室に所属しておりまして、当時は、今議論をしている計画の中の都心エネルギーアクションプランの策定作業のさなかでございまして、そういったものを担当したり、そのときに個別にまちの中で起こっていた開発案件、当時はまだオリパラ招致を目指していましたし、今、新幹線も遅れぎみですが、当時は2030年開業を目がけており、各開発も2030年を目がけて計画を立てていたタイミングでございました。

ただ、その後、ご承知のとおり、コロナ禍などで色々な計画が大きく変わってまして、また、ライフスタイル、価値観もこの数年間でどんどん変わってきております。本当にこの短い間で色々なことが変わることが、我々まちづくりに携わる者として難しさを感じる部分でもあり、また、時々刻々と変わることに対してどう対応していくかを悩む面白さを感じているところでございます。

改めて、この検討会は第3次都心まちづくり計画ということで、これまでまちづくりの指針とエネルギーの指針の二つに分かれていたものを今回は一つにまとめて都心まちづくり計画として策定しようという試みでございます。ここに至るまでに、皆様からも非常に多くのご意見や宿題をいただいていることを事務局員から聞いております。

そして、この策定作業は今年度末を目指しているということもございまして、今、お話しした委員の皆様からの宿題、意見の全てが今回の計画の中に盛り込める、あるいは課題に対応できるかという、なかなか至らないところもあると思いますけれども、可能な限り、それをこの計画の中に落とし込んでまちづくりの指針としてまとめていきたいと考えておりますので、引き続き、忌憚のないご意見、闊達な議論をよろしくお願いいたします。

なお、本日は、主な論点として、成果指標、重点的に進める取組の2点を議論いただく予定でございます。計画の大変重要な部分となりますので、今日も引き続きご意見をいただければと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に配付しました資料は、次第、資料１の座席表、資料２の（仮称）第３次都心まちづくり計画検討会の委員名簿、資料３の第４回（仮称）第３次都心まちづくり計画検討会資料、また、参考資料として、計画全体構成（案）、第４回第一部会資料です。

以上ですが、不足はございませんか。途中でお気づきの点がありましたらお声がけいただければと思います。

なお、第４回第一部会の議事録につきましては、現在作成中でございますので、後日、ホームページにて公開いたします。

続きまして、本日の委員とオブザーバーの皆様の出席状況をご報告させていただきます。

本日は、愛甲委員、片山委員、池田委員、三浦委員の４名の委員からご都合によりご欠席とのご連絡を頂戴しております。

また、小篠委員におかれましては、本日、オンラインにてご出席いただいております。

続きまして、事務局を務めます札幌市都心まちづくり推進室でございます。

また、事務局補助として、業務受託者の株式会社ノーザンクロスが同席しております。

なお、報道各社におかれましては、この後の写真・映像等の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除き、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表しますので、ご了承ください。

それでは、村木座長に以降の会議の進行についてお願いしたいと存じます。

村木座長、よろしくお願いいたします。

２．第４回検討会資料説明

○村木座長

おはようございます。本日も、どうぞ活発なご意見をいただければと思います。

それでは、早速、議事に入ります。

次第に従いまして、事務局から資料説明をお願いいたします。

○事務局（杉原推進担当係長）

都心まちづくり推進室の杉原です。私からご説明させていただきます。

お手元の配付資料３又は画面をご覧ください。

なお、委員の皆様は事前にお送りしたもののから一部修正がございますので、あらかじめご了承ください。

２ページをご覧ください。これまでの振り返りということで、改めて本計画検討のスケジュールをお示しいたします。この検討会本体は、前回２月に実施いたしました。また、参考資料として配付しておりますとおり、第一部会は６月１３日に第４回を実施し、本日の論点にもなる成果指標や重点となる路線についてご意見をいただいたところです。第二

部会は、この後、7月11日に開催し、主にエネルギー施策部分の計画の素案について議論を深めていく予定です。

3ページをご覧ください。前回2月27日に開催しました検討会の振り返りを掲載しております。全体の構造を整理すべきですとか、ストーリーを描く必要性などについては、それぞれどのように表現すべきか、検討を重ねているところでございます。

本日、参考資料として配付しております参考資料で全体構成をお示ししておりますが、これまでお示した骨子案となるスライドを基に現在も整理を進めている段階であり、つながりや関係性の説明が必要な部分や全体のバランスについての課題は認識しており、これから計画本書として整える段階で併せて整理してまいりたいと考えております。

4ページをご覧ください。指標については、いただいたご意見を踏まえまして、本日の論点として、この後、整理したものをお示ししたいと思います。

また、4章の2、骨格構造のところ、うけつぎの軸やいとなみの軸に拠点的なものがないというご意見がございました。画面のみ、補足資料を投影させていただきます。

骨格構造に定める交流拠点は、これまでの計画で骨格軸の交点や多様な機能・活動などの集積が見込まれる交通結節点を位置付けると定義してきており、次の計画でも考え方は踏襲することとしております。

なお、東4丁目線は、骨格軸ではなく展開軸という位置付けであり、新たに位置付ける展開拠点と同等に、面的なまちづくりを重点的に展開していく必要があるところと考えており、現時点では、さらにそこに交流拠点・展開拠点を重ねることは難しいと考えております。

一方で、交点の考え方としましては、参考資料としても配付しております第一部会の資料の22ページ目の地図に青色の丸をつけている拠点的交流空間検討箇所として整理したいと考えております。

この場所の考え方としましては、25ページにおいて、地域の活動や回遊を生み出す拠点として、骨格軸等の主要な通りの結節点において官民が連携して魅力的な空間の創出を検討すると提示し、辻空間に広場や滞留空間などにより魅力化を図ることを例示しております。

そのほか、こちらに書き切れなかったご意見も含め、次回提示する予定の計画案にて整理してまいりたいと考えております。

資料戻りまして、5ページでは、改めて全体の構成と、本日論点にする箇所をお示ししております。

また、6ページにて、論点を二つ提示いたします。まず、成果指標の設定についてです。

7ページをご覧ください。改めてとなりますが、本計画で目指すべき都心まちづくりの理念、その実現のために目標を三つ定め、それぞれに成果指標を設定いたします。

一番右の目標3については、2050年のCO₂排出量実質ゼロということで目標値までを前回提示済みでございますので、本日は目標1、目標2の指標と目標値について、一

定の方向性を見いだしていきたいと考えております。

８ページをご覧ください。まず、６月１３日に開催しました第一部会、居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会にて提示した資料と、それに対する意見についてご紹介させていただきます。

目標２の成果指標案としましては、回遊性を評価する視点から、主要地点における歩行者交通量、満足度を評価する視点から、「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合の二つを提示し、そのほかにモニタリングを行う指標を複数列記しているところです。

９ページでは、成果指標の目標値の設定についてお示ししております。なお、別添の第一部会資料の中では、１１ページから１６ページにかけて、そのほかに幅広く検討した指標の整理などを含め、お示ししていることを申し添えます。

本検討会資料に戻りまして、１０ページをご覧ください。部会で出た意見を幾つかお示ししております。

質的評価をより強化することや、主観をより正確に捉えるための工夫が必要といった様々なご意見を頂戴いたしました。これらの意見を受けまして、成果指標とモニタリング指標と提示したもののその位置付けについて明示できておりませんでしたので、まず、その整理を行い、今回お示しさせていただきます。

１１ページをご覧ください。この計画と、計画策定後に整理する予定であり、具体的取組、施策をまとめ、おおよそ５年ごとに更新する中期アクションプログラム、この二つについて、指標の種類、位置付けを整理したのがこちらになります。

取組ごと、あるいは、都心の中のエリアごとの直接的な成果をはかるアウトプット指標として活動指標があり、その取組によって生じた変化をはかるとともに、都心の現状を把握するものとしてモニタリング指標を位置付けたいと考えております。

これらは、取組の進捗状況はもちろんのこと、調査手法を含めて実態や社会情勢に応じて柔軟に見直しができるよう、中期アクションプログラムに位置付けたいと考えております。

一方、計画本書に位置付ける成果指標に関しては、２０年を見据えた計画期間中、原則据置きとなることを踏まえ、長期的かつ総合的な成果を評価するものと位置付けます。

なお、表の一番右にあるとおり、いずれの指標も今後設置する推進委員会にて、都心のまちづくりに関わる皆様で共有し分析・検証するという運用を行いたいと思います。

この指標の種類の整理に基づき、目標１の指標の考え方を整理したものが１２ページとなります。

取組はまだ例示となりますが、この目標では、多様なひと・もの・ことが集まるだけでなく、そこから新たな産業・文化・交流が生まれること、それにより新たに生まれる価値を定量的に示すところにまで至って、この目標の到達点を示すことができるという観点で成果指標を検討いたしました。

13ページをご覧ください。目標1の成果指標としましては、企業等の生産活動によって新たに生み出された価値を示す純付加価値額を提示させていただきます。産業はともかく、文化や交流が生まれた先にある価値の全てを経済的な指標で換算するのは難しいと思っておりますが、それらに伴い生じる経済活動は共に取組を進める民間事業者にとって分かりやすい評価になるのではないかという点や、北海道、札幌を牽引する都心特有の役割、また、目標2や目標3で評価する部分とのバランスも考慮し、こちらの案とさせていただきますに至りました。

こちらの数字は、前回ご意見としてもいただいた他都市との比較ができる、それも市全域ではなく都心に絞った数字を出すことができるものとなっております。

その目標の設定については、札幌と経済規模が比較的同程度で、地方の中心都市という共通点がある仙台、広島、福岡の3市の平均を基準値と置き、それ以上の上昇率を目指すこととしたいと考えております。

成果指標を補うものとして、モニタリング指標の案を14ページに掲載しております。

なお、このほかにも資料29ページ以降の巻末に検討を行った候補の一部について参考まで掲載しております。

15ページをご覧ください。改めて、目標1、目標2、目標3の成果指標について並べております。

目標2に関しても11ページでお示した成果指標とモニタリング指標の考え方に基づく、部会でいただいたご意見はモニタリング指標設定の過程において反映するよう整理していきたく、成果指標としては記載のとおり、事務局案として提示させていただきます。

16ページをご覧ください。本日の論点1、指標について、本日、特にご意見をいただきたいことをまとめました。一つ目は、目標1及び2の成果指標、目標値について、一定の方向性を見いだしたいことから、代替案を含め、ご意見をいただきたいと思います。二つ目としまして、成果指標を補うモニタリング指標へ追加検討すべき項目について、ご意見をいただければと思います。

続きまして、論点2、重点的に進める取組について説明させていただきます。こちらは計画の第5章に当たる部分の骨子案として提示させていただきます。

18ページをご覧ください。前回の検討会でもお示したとおり、この前の章で目標ごとに取組の方向を整理してきているところですが、個々の取組を進めるに当たって重視する考え方として、これまでと少し切り口を変えながら、本計画において特に強調したいこととお示しするのがこの第5章となります。

それを踏まえていただきまして、この計画で、特にアプローチをしていかなければならないと考えているのは、更新時期を迎える建築物となります。まちづくりとエネルギー施策、三つの目標の実現につながる取組を一体的に誘導していくことが重要であり、改めてまちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性を高めていくことについて打ち出しております。

続きまして、１９ページをご覧ください。都心のまちづくりにおける札幌らしさについて、ここで語りたいと考えております。取組、特に企画設計や運用の段階において特に配慮すべきポイントとしまして、「ひと」「ゆき」「みどり」の３点をお示しします。この３点は札幌市の最上位計画である第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンの目指すべき都市像にも掲げられているキーワードであり、札幌特有の特徴を表すとともに、これまでの都心まちづくりでも大事にしてきた考え方でもあります。

続いて、２０ページをご覧ください。更新時期を迎える建築物の建替えなど、何らかのプロジェクトを動かしていく際の進め方のポイントとして社会実験と市民議論、エリアまちづくり、既存ストック活用が重要であるということをお示しします。プロジェクト単体で完結するのではなく、公共と民間、様々な関係者による取組が共鳴し、相乗効果をもたらしていけるよう協働していくことがひいてはプロジェクトの成功や、波及効果が見込めるということを伝えていくパートになると考えております。

２１ページをご覧ください。ここからは重点的に進める取組を場所別にお示ししていきます。まず、このページでは、これまでの検討会や部会でお示してきたことの振り返りとして、各目標で力を込める部分についてまとめております。

２２ページでは、それらを重ね合わせ、軸や拠点といった骨格構造も踏まえて、今後の計画期間で重点的に推進していくべき箇所を表したものになります。また、軸や拠点単体の話にとどまらず、それぞれ連携していくべきもの、又は、波及、連鎖していく可能性が高いという視点で区切ってご紹介いたします。

２３ページをご覧ください。まず、大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺を上げております。ここは大通公園をはじめとした札幌を代表する地域資源が集積することから、まさしく理念を体現する都市ブランドの確立に向けて、次の２０年で、官民の連鎖的な開発や相互連携により、街区、道路、公園を一体的に動かしていくべき場所と認識しております。既に、はぐくみの軸強化方針にて将来像を示しているところではありますので、今後は、その実現に向けて、周辺の回遊動線も含めて取組を強化していくところとして位置付けます。

２４ページをご覧ください。続いて、札幌駅交流拠点と、前述の大通・創世交流拠点、二つの交流拠点とそれらをつなぐ都心まちづくりを先導するエリアと銘打っております。これまでもそうであったとおり、都心の中でも都心というコアな場所になっていますので、三つの目標について一体的に具現化・高次化し、都心全体やほかのエリアに波及をさせていく先導的な役割がある場所と考えております。

札幌駅交流拠点では、現在、大規模工事が進んでおり、まずはそれらを着実に進めること、その後の人の流れなどを見据え、エリアの価値向上に向けた持続的な取組を進めていくことが重要であると考えております。

また、各通りは、回遊・滞在の視点で機能向上を図るための主要検討路線の中でも今後予定している関連事業等を踏まえて重点的に検討を進める区間とその検討の方向性を示し

ております。この各路線の方向性などについては、特にご意見などをいただきたく思っております。なお、具体の検討に当たっては、市民、地域や沿道の関係者及び関係団体と将来像を共有し、官民が連携して取組を推進することが重要であると考えております。

25ページをご覧ください。こちらは第3次の計画で新たに骨格構造に位置付けた大通公園西と中島公園駅周辺の展開拠点と、いとなみの軸を中心とした創成東エリア、これら都心のひし形の端に当たるところの魅力向上を図っていく必要性について強調するものになります。前のページにあるような都心機能強化先導エリアとは異なる特徴を明確にしながら、多様なニーズに応えるまちづくりを進めていくことで、都心全体の魅力を厚みのあるものとしていくことが求められます。

大通公園西と中島は、それぞれ地域との間でガイドライン策定に向けた動きを進めているところであり、26ページは、そのガイドラインの下書きとなる既存の方針、基本構想を参考まで紹介させていただきます。

27ページをご覧ください。論点2としまして、18ページから20ページに示した取組を進めるに当たって重視する考え方及び23ページから25ページにお示ししました取組の重点1から重点3について、それぞれ不足している視点はないか、ご意見をいただきたいと思います。

説明は以上となります。駆け足になりましたが、忌憚なきご議論をよろしく願いいたします。

○村木座長

ありがとうございました。

3. 意見交換

○村木座長

それでは、ここから議論をさせていただきたいと思います。

今日の論点は2点提示されていて、まず、1点目の成果指標の設定についてご意見を伺いたと思います。15ページに、目標1、目標2、目標3とあって、そこに成果指標がありますね。特に、今回の論点というところで目標1、目標2について書かれていますが、「多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心」の成果指標として純付加価値額が出され、目標2は、「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」で、成果指標が歩行者交通量、まち歩きが楽しめる通り場所が多いとしている人の割合が出されています。

今、この成果指標は一つと二つで、これがたくさんあるのがあるのかどうか分からないですけれども、そこから取捨選択するのか。ただ、ほかにもこれらの目標を見る際にこんな視点があるというものがあればご意見を伺いたと思います。どうでしょうか。

○東委員

資料はあらかじめ読ませていただいて、まだ十分消化できていないのですけれども、印

象としては成果指標そのものに大きな違和感は覚えません。ですから、成果指標としてこれを採用することでいいという気もするのですが、やはり、今回の計画が20年を視野に入れた計画ということで、今後、環境が変わったり、新たに加えるべき視点が出てくるかもしれないので、成果指標をころころ変えることはあまり好ましくないと思うのですけれども、少し柔軟性と拡張性が指標にあってもいいのかなと感じました。

もう一点は、これから20年間の大きな課題は、まちづくりの観点から言えば、都市機能の更新や拡充ということだと思うのですが、やはり一番大きな課題は人口減少、世代人口、外国人になっていくと思いますので、それをモニタリングに入れるのか、活動に入れるのかというのはピンとこないのですが、そういう視点も要するというのは資料とは別なところで感じました。

ただ、あまり範囲が大き過ぎると、この都心まちづくりの意義がぼけるので、本当に都心まちづくりが都心だけではなくて札幌市全体にとってどういう効果があるかを関連づけるための指標があるといいのかなと今回の資料をいただいて感じたところです。

○村木座長

拡張性や、それについてどんな指標があるかですね。

今、人口という言葉も出てきましたが、人口はデータとしては取るのですね。ですから、取るけれども、この目標1、目標2、目標3の中に成果指標として記載するわけではない、そんな感じの整理でよろしいでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

今、村木座長にお話しいただいたとおり、都心内の人口は我々のほうでも数字が取れますので、そのあたりはモニタリング指標という形で見ていきながら、今後設置予定の推進委員会の議論の場に出して行って、その推移を見ながらまた施策に反映する、そういった流れで考えているところでございます。

○東委員

就業人口は書いていただいています、これは立派な指標になると思います。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○島口委員

大通まちづくり会社の島口でございます。

以前にも申し上げていますし、今のお話もそうですけれども、この中に観光が全く書かれていないのです。モニタリング指標ということは分かりますが、観光には全く触れていないのです。

そのあたりの定義の問題もありますけれども、以前も申し上げたとおり、この都市は観光都市ですね。そのほか、以前から観光が実際にどのぐらい経済に波及をしているかという数字もお出しになったらいかがですかと言っているのですが、全く出てこないのです。

実際に、今の札幌市内の再開発を見ましても、間違いなく、この人口減少下を狙った視

点ではなく、新幹線後の観光客を狙った開発に主眼を置かれているのはもう明らかなわけですから、このあたりは観光を受け入れる都市としての表記をきちんとしていかないのかということに非常に疑問がございます。

そういう意味では、新幹線も含めて、我々はこれから人口減少下のこの都市が生き残るすべとして観光をきちんと理解をしていかなければいけないのに、まちづくりの指針の中で魅力的な都市という形もあるのですが、これは観光客にとっても魅力的でなければいけないわけでございまして、こういうところの視点が欠落しているというのは何度かご指摘させていただいておりますが、いまだに表現をされていないのは疑念がございます。

もう一つは、「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」とございます。これは、地上部のことをおっしゃっているのかもしれないのですが、地上部はそのまま何もしなければ積雪地でどうにもならない、歩行空間は維持できないわけです。我々もそうですけれども、ロードヒーティングをきちんと整備をして、皆さんが歩きやすい環境としているわけです。

この環境下で、例えば、大通地区にしても、我々の地域にしてもそうですけれども、まず間違いなく電気料を1億円以上払っているわけです。これは民間が全て担っているわけですので、こういう現状下で行政としてそれをどうしていくのか、実際にそれを維持できなくて、今、歯抜けのようにロードヒーティングが入っていない地域も出てきているわけです。では、これを行政として歩きやすいまちを維持するために、ロードヒーティングで費用を補助するのか、それこそ、固定資産を含めて減免を考えてサポートをしていくのかという指針がない限り、これはだんだん電気料が上がり企業負担が増えていくと電気を入れない業者が増えていくということもございます。今後、地上部分の回遊性を論議するのであれば、その辺のことも背景としてお考えいただかなければいけないのではないかと思いますので、この2点を論点としてご提起させていただきます。

○村木座長

観光が入ってきていないというご指摘と、ロードヒーティングも含めて歩けるまちをつくっていく際にどうしていくのかということですが、事務局、これはいかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

まず、1点目の観光の取上げ方が不足しているというご指摘についてですが、以前も島口委員にご参加いただいたときにそういったご意見を頂戴しまして、我々としても観光機能についての重要性は認識しているつもりでございます。

参考資料の計画全体構成（案）の31ページ目のスライドをご覧いただきたいと思います。

この第4章の取組の方向の基本方針の中に、北海道の観光の玄関口にふさわしい機能の集積や、多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実という中で観光に関しての落とし込みをしたつもりです。

また、本日の論点の中にもございます成果指標には直接入れてはおりませんが、その成果指標を補足する指標という形でモニタリング指標の中で観光客数もしっかり見ていき

いと思います。

まだ足りない指標等もあろうかと思いますが、そのあたりもご意見いただきながら、今後の議論に反映させていただければと考えているところでございます。

また、2点目のロードヒーティングに関するお話は、今、島口委員がいらっしゃる大通地区に関しましても、ロードヒーティングが歯抜けになっている状況を我々も見せていただいているところでございまして、こちらは特に冬の回遊性という観点では非常に大きな問題だと思っております。これは、バリアフリーといった観点でも非常に問題ではないかと思っておりますが、今、それに対する抜本的な対応ができていないところでございますので、いただいたご意見を今後の施策に反映できるよう、庁内で検討できればと考えているところでございます。

○島口委員

一応、触れられているということですが、本当はもっと前面に出ることかなと思っています。

もう一つ、ロードヒーティングですけれども、これだけの電力を使うのですから、例えば、水素発電の形で我々にご提供いただくような考え方もしていただけますと、我々としても新しいクリーンエネルギーを使えるので、今後、お考えをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○村木座長

そのようなことを将来的にどうするかということですね。

今のお話を伺いながら思ったのですけれども、15ページに最終的な目標として「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」とあります。ここと、モニタリング指標も含めて、31ページに指標の検討という欄がありますが、これらのところにも観光客という言葉が出てくるけれども、手前のところにそれがないから、誇れる札幌の都心をつくる際に、個別のものがどう関係してきているのかというのが、この目標1、目標2、目標3だけだと分かりづらいです。そうすると、恐らく、ロジックモデルで明確に説明したほうが多くの人に分かりやすいかかもしれないと思います。

今さらですが、そのようなところをもう少し整理して考えられるといいかもしれないと思いました。ほかはいかがでしょうか。

○高野委員

まず、成果指標の目標2の歩行者交通量ですけれども、第一部会で議論をしたときには、個々の成果指標よりもモニタリング指標等に議論が行っていきまして、ここについてはそんなに議論がなかったのです。

一つは、歩行者交通量が20年の長期目標に耐えられるかという意味で考えたときに、歩行者交通量は累積的に増えていく、減っていくというよりも、季節によっても違いますし、イベントによっても違うし、ある断面によってかなりぶれる指標ですね。そういうときに、本当に20年積み重ねていった歩行者交通量でいいのか、そういう指標につい

てが一つです。

それから、20年というスパンを考えると、歩行者だけではなく、自転車もあるし、キックボード等の新たな交通もあります。また、歩かないけれども、滞在しているみたいな滞在者という捉え方もあると思うのです。そういう意味では、歩行者交通量をどう取るのか、平均的な歩行者交通量を取るのは非常に難しいですし、短期的な動向によって、19年間ずっと積み上げているけれども、20年のところでまた何かの病気がはやれば、途端に歩行者交通量は落ちるので、長期の指標とのタイアップで歩行者交通がいいのかどうかは再検討する必要があるというのが1点です。

それから、純付加価値額ということで色々な活動を表すのはいいと思うのですが、一つは、産業別付加価値額が出ているのではないかと思うのですが、本当に全産業でいいのかどうか。例えば、工場ができたり、第2次産業による付加価値額がどんと増えるような状況が本当に都市部にあっているのかどうか、そういう意味ではもう少し内容を見た上でということもありますね。

それから、令和3年度のデータが平成28年度に対して結構増えているのですが、令和3年度はコロナ禍の年ですよね。本当に都心部の付加価値は増えていたのだろうか、商業も特に飲食は激減している状況だったですね。そういう意味において、このデータの中身ではその辺が分かりにくい点があって、第3次産業ではないものが下支えしていて、それでコロナの影響があまり出てこないのではないかという感じもしなくもないです。

そういう意味でこの中身を見るのと、本当に都心部の範囲をどういうふうに計算しているかは分かりませんが、我々が言う都心部よりもっと広い範囲でも別にいいのかなという感じもするので、範囲の議論と産業内訳の議論を少し考えた上ではないと、このままオーケーですとは言えないということです。

○村木座長

交通量のことも含めて、極めて重要なご指摘でした。

今、目標1と目標2についてご意見いただきましたが、事務局から何かありませんか。

○事務局（杉原推進担当係長）

純付加価値額につきまして幾つかご指摘いただきましたので、詳細について、ご説明、補足をさせていただきたいと思います。

まず、令和3年度の数字が平成28年度よりも大きくなっているというご指摘ですが、こちらは、国の調査の手法の中の経済センサスが基になっております。事業所に調査票をお渡ししてそれを集計するというやり方ですが、令和3年度から、マンションの一室など、これまで事業所としてなかなか認識しなかったところの掘り起こしを行ったということで、全国的にサービス業、特に不動産業やEC系の卸小売業が多いようなエリアでは今まで捕捉していなかった事業所が新たに対象になったために数字が上がっております。特に、札幌はその影響を大きく受けているということと、東京23区も同じように非常に大きな伸び率になっているというのがその影響だと聞いております。そのため、平成28

年度からの純粋な上昇率や金額の上昇について、単独でそこから目標値を設定するのがなかなか難しいという状況もありましたので、申し添えます。

また、都心の範囲の計算は、都心の従業者数から割り出しているものとなっております。ですから、ほかの都市部についても条丁目単位で従業者数が出ておりますので、産業別の従業者数を掛け合わせて、都心の純付加価値額を計測しております。

○高野委員

計測・評価方法が変わったということだと思いますが、そういう意味では、産業別の付加価値額も見たほうがいいと思いました。

全産業で本当にいいのかどうか、見たことはないですけれども、自信が持てないと思います。

○村木座長

もう一つ伺いたかったのは、この数字をどの範囲で取っているかというのは、参考資料の11ページの中の範囲の交通量や純付加価値額の計算をしているという意味ですか。

○事務局（杉原推進担当係長）

参考資料、計画全体構成案の8ページをご覧くださいなのですが、計画対象範囲の右の図の進捗管理区域で線を引っ張っているところで計測しております。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

補足をしますと、目標1については、今お話ししましたとおり、8ページ目の進捗管理区域、赤色の線で囲んでいる条丁目単位での数字で試算をしているものです。

目標2につきましては、商店街でお取りになっていらっしゃる歩行者通行量を使わせていただきたいと思っております。これは地点が都心内各地にございますので、それが札幌の都心全体の歩行者通行量を捕捉するには、現状値又は過去との比較等も含めて、数字を捉えるには適切ではないかと考えて設定したものでございます。

○村木座長

数字によって取る範囲が違うということですから、このあたりはきちんと整理して説明できるようにしたほうがいいかなという感じがします。

ほかに何かご意見ある方はいらっしゃいませんか。

○榎本委員

目標2と目標1でそれぞれ意見があります。まず、目標2ですが、高野委員からのご指摘と関連するのですけれども、多分、「冬でも、誰でも、」が札幌の計画の肝だと思うのですが、現状の指標では回遊性も満足度も「冬でも、誰でも、」がはかれないのではないかと思います。特に、満足度のところは誰に聞くのがすごく大事だと思います。

先ほどの島口委員のご指摘もそうだと思いますが、国内からの観光客に聞くのか、外国人のインバウンドに聞くのか、障がいをお持ちの方に聞くのか、広く市民に聞くのかで満足度の評価が変わると思うので、その調査方法の設計がどういう形になるのかということをはきちんと明記しておいたほうがいいと思います。

モニタリング指標のところで行くと、モニタリング指標が全体的に急に人間味がなくなる指標になる印象があります。札幌市はこれまで地下街と地下通路との接続、民間接続のところにテラスを置いたり、座れる場所を設定してすごくアメニティーを増やしてきた経緯があると思うのですけれども、そういったところをきちんと評価できるようにしてほしいと思います。この公開空地の箇所数、面積も確かにそうですけれども、もう少し人間味というか、魅力を付与して、皆様が頑張っている開発誘導がきちんと成果が出ているかどうかをはかる指標をモニタリング指標として設置したほうがいいと思います。

目標１は、成果指標はそのとおりかなと思いますけれども、文化に関するモニタリング指標がないことと、多様なひと・もの・ことが集まったことが評価できるモニタリング指標ではあるのですけれども、新しく生まれたものに関してはこのモニタリング指標ではなかなか見えないのではないかと思います。どういう指標がいいのかというのは私もまだ思いついていませんが、例えば、文化支援、文化振興によってこの進捗管理区域で文化的なイベントがどのくらい生まれたのか、継続しているのか、新しい飲食店やスタートアップの施設が進捗管理区域の中でどういうふうに生まれてきているのかということを経年で追えるほうが成果指標との連動、目標との連動がうまく評価できるのではないかと思います。

○村木座長

純付加価値額だけではなくて、ここで書かれている産業・文化・交流をカバーするものとなると、もう少し数が多いだろうということですね。

また、目標についても同じようなご意見があったと思うのですが、特に、まち歩きが楽しめるというのは誰が楽しいと思うかというご指摘があったと思います。

もう一つ、私は榎本委員にお伺いしたいのですが、人がこういう評価をすると、まちが良くなるとそれが当たり前になって、例えば、１０年前と今と１０年後だと満足度は変わりますね。そうすると、この目標値の７０％の意味合いもかなり変わってくると思うのですけれども、このあたりで何か思われることはありませんか。

○榎本委員

私見ですけれども、比較前後で調査データを比較しますが、その間に重点的に何をしたのかによるのではないかと思います。

例えば、アメニティーを増やす、サインの計画をすごく重点的にやるといったときに、この目標値がどう変わってきたのかということを見なければいけないと思うので、そこも、満足度みたいな質的な評価に関しては設問の仕方を変える、施策の実施にあわせて事前事後でちゃんと設問項目をそろえて比較可能にしておく配慮が必要ではないかと思っています。

また、全体でばくっと満足度を問うと、満足しているという回答が多くなる傾向があります。そのようなバイアスに配慮した調査の設問の設計が必要ではないかと思っています。

○村木座長

今の榎本委員のご質問に対して何かお答えはありませんか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

まず、誰に聞くのが大事かというのはおっしゃるとおりだと我々も思っております。最初の検討会の議論の中でもターゲットを誰にするのかというお話を頂戴しておりまして、島口委員からもありました観光客のお話もそうですし、都心にいらっしゃる方々は様々ありますので、その視点は我々も考えているところでございます

これも言い訳的な形にはなってしまうかもしれませんが、現状、数字が取れているものがないこともございまして、それに対して現状値から将来への目標値を定めるという観点で考えたときに、今ある数字は市民に聞いている数字ですので、それ以外の観光客の皆様にも聞いている数字も、別途、モニタリング指標なり活動指標で補っていければと考えているところでございます。

また、人間味がないというお話ですが、実は同じようなお話を第二部会でも頂戴しておりまして、今回、資料の10ページ目のスライドで第一部会の皆様にご意見を頂戴していただき、全くと同じではないかもしれませんが、同じような観点でご指摘をいただいたものと受け止めております。

こちらにつきましても、非常に理解するところでございまして、今後、推進委員会等の中で新しい質的な評価を我々も研究をしながら皆様のご意見を重ねながら、そういった指標設定をしていければと考えているところでございます。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○池ノ上委員

私からは二つあります。一つは、先ほども話題になった観光の点と、もう一つは、人口ダム機能という話をしたいと思います。

観光の話は、皆さんもおっしゃっていたのですが、やはり今も話題になっていた14ページのモニタリング指標のところで、もう少し観光の指標が入ったほうがいいのではないかというところです。

一つは、札幌の北海道における観光の役割は宿泊拠点だと思うのです。色々な旅行会社の人たちと話をしても、小樽に行こうと、富良野・美瑛に行こうと、札幌で宿泊するのだという話をされていました。これがいいのか悪いのかというのはあるのですが、道内色々な地域で宿泊のキャパが小さいということがあるので、そういう意味で言うと、札幌が宿泊の箱をどれくらい提供しているのかというのは重要かと思っています。それがコロナ中も含めて、不動産価値を上げてきた、投資を呼び込んできたのも確かかと思っておりますので、例えば、宿泊事業者数なのか、客室数なのか、稼働率なのか、その辺は検討が必要かもしれないですが、宿泊に関する数字が入ってもいいと思いました。

もう一つは、宿泊だけだとまちとしての観光の魅力が上がっていかないので、よく言わ

れる交流施設、飲食やエンタメ、先ほども出ていたような文化施設も含めた交流施設に関する施設、これも施設数なのか、先ほど出ていたような支援の話なのか、そのあたりは検討が必要だと思いますが、交流に関してのものもあっていいと思いました。

もう一つは、移動手段に関しての指標があってもいいと思いました。やはり、なぜ拠点になるのかと考えたときに、移動手段、交通手段が充実していることが拠点としての条件だと思います。最近、観光インフラという言葉もよく使われるようになってきていると思いますが、宿泊も、交流施設も、移動手段、交通手段も全部観光インフラだと思うのですが、そのあたりがどれぐらい集積されているかを数値化していくのがいいと思います。

二つ目の人口ダム機能の話は以前から少しお話しさせていただいているのですが、先日も児玉企画課長に授業をしていただいて、学生たちにワークショップをしたのです。

テーマは、若年層、18歳から20代ぐらいの社会減が札幌は大きいので、なぜ札幌を去るのか、あるいは、札幌から去らないためにはどうしたらいいのかを学生たちに考えてもらいました。

一つは、北大以外に有名な大学がない、偏差値や就職で有利な大学がないということです。さらに、その先にある就業先として、最近では、初年時の給料といった数値的なものになりがちですが、それにしても、関東圏、関西圏と比較すると低いので、就学で出ていくのか、就職で出ていくのかというのはあるのですが、その辺でやはり負けているという話がありました。

さらに、住むところです。かつては郊外の住宅開発があって、札幌も積極的につくっていったと思うのですが、年収の5倍とよく言いますように、ある程度安価で買えるものが少なくとも都心にはもうほとんどないわけですね。郊外は、ある意味、どんどんまちをしまっていく状況になっていて、僕たちはどこに住めばいいのかという住環境の話と住宅政策の話がございます。

あとは、これは首都圏と競っていいのかどうかということはあるのですが、遊ぶ場所です。

ただ、2009年と古いのですが、政令指定都市の市長会で調査されているもので、中枢性とか規模性みたいなことを数値化して偏差値を出して政令市の比較をしているデータがあると思うのですが、そのあたりでうたわれているようなことは最低でも押さえたほうがいいのかなと思います。指標化するのにどうしたらいいのかという答えを持たずに話しているので申し訳ないのですが、今、札幌の人口を減らしている一番の年齢層が何を求めている、何に答えられていないかを数値化、指標化するのは大切かと思いました。

追加で、先ほど質のデータをどうするのかという話があったと思うのですが、これも今、札幌市と一緒に勉強させていただいてるさっぽろ未来創生プランという別の計画で、SWI、Sapporo Well-being Indexというものを開発しようとしてされていて、まだまだ未完成という話をされていましたが、その中にまさに先ほどの都心部の主観的指標、質的指標みたいなものを入れ込んでいってもいいのかなと思っていました。

○村木座長

14 ページに主なモニタリング指標がありますが、これは案ですから、これだけではなくて、追加でもう少し色々なものが入ってきます。

将来の札幌を考えた際に、今、就業先と住むところと遊ぶということを言われていましたが、それに関連する指標があって、そこからさらに成果指標をもう少し考え直していくということにつながると思って伺っていましたが、そんな感じでしょうか。

○池ノ上委員

はい。

○村木座長

そうすると、ほかにこのモニタリング指標も含めて何かご意見はないでしょうか。

○矢野オブザーバー

石狩振興局の矢野です。

まず、成果指標ですけれども、私は、目標1の成果指標はこちらの内容でいいと思っていました。一番特徴もあって比較しやすいところで、仙台、広島、福岡と比較して上昇率で目標とするということになっているので、確かに、産業も将来はどれが伸びるかが分からないところですが、例えば、仙台や福岡は札幌と結構似ていると言われているところがあるので、こちらが伸びているのに札幌が伸びていない、逆に、そちらは平行なのに札幌だけ伸びているということであれば、伸びた理由を分析しやすいのかなと思いました。将来、何が伸びるのか分からない中で言うと、こういう似た都市との伸び率を置いておくのはいいかなと思いました。

モニタリング指標で、都心にまた来たいと思う来街者の割合ですけれども、私ども石狩振興局としては、札幌近郊のまちのことも考えたりしますと、札幌に近いことを優位性にすることがあります。それはなぜかという、近郊から札幌市に遊びに来たりすることが多いということで、その人たちの意向をどこに反映できるのかと考えてみたときに、このアンケート調査があれば、都心にまた来たいと思う来街者の割合が増えれば、近郊からも人気があって、そこに行けるということで、近隣にも交流人口や移住者も増えていけると思うので、ここを伸ばすという意味でこれを指標にしていっているのがいいと思っておりました。

気になったのが、これがずっと定点で調査できるのかというところで、先ほどお話も出ました対象者と継続性があるかどうかというところをご検討いただければと思いました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○内川委員

札幌駅前通まちづくり会社の内川です。

この第3次の都心まちづくり計画の上位に戦略ビジョンがあると思うのですが、不勉強で大変恐縮ですが、戦略ビジョンで成果指標やモニタリング指標が定められている

のかなと思いました。少なくとも、そちらで押さえているのであれば、全市的なものと都心部の比較で都心がそれだけ底上げしている、ボトムアップしているということにもつながると思うので、それは最低限押さえるべきことではないかと思いました。

今、ビジョンを見ていたのですけれども、それに該当するような指標が見当たらなかったもので、質問も含めての意見でした。

○村木座長

事務局、今の点はいかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

今すぐには確認できないのですが、全市の指標と都心の指標と比較してというお話を頂戴しまして、まさに、そういった分析をしたいと我々も考えて、様々な指標の検討をしていたところですが、都心部だけの数字を取ることがなかなか難しいものが多いございまして、今、我々の苦しみにつながっているところでもあります。

先ほど矢野オブザーバーからも継続性というお話を頂戴しましたが、あまり多大なコストをかけずに継続しながら数値を見続けていくことの難しさを痛感しているところございまして、ここのバランスを財政的な面も含めて庁内で検討しながら、取る指標の設定を今後詰めていきたいと考えているところでございます。

○村木座長

全市と都心を比較する、それから、仙台、広島、福岡と比較する、これも比較したところで、なぜそのような変化が出てきているのかというのは、純付加価値額の差だけではなくて、先ほどもご意見のあった就業、住むところ、遊ぶところ、文化など、色々なものの違いが関係してくるので、ただ単に比較すればいいのかということでもなさそうな気がしますね。

色々なことを考えなければいけない気もしますが、ほかにご意見はいかがでしょうか。

○小篠委員

会場の雰囲気分からない中で話をしますが、今回、皆さんは指標についてすごく活発にご意見していただいているので、いいなと思って聞いておりました。

ただ、仙台、広島、福岡と札幌を比較するというのは、数値上で比較するだけでは違うと思っています。どういうことかという、例えば、池ノ上委員からのお話で、札幌を離れてしまう若年層が多い中に、高等教育機関の数の少なさという、行きたい学校があまりないとありました。例えば、福岡の都心には九州大学は医学部以外がないのです。広島も、広島大学は東広島市にありますから、この都心の中にはないです。だから、都心の中にある旧帝大は札幌と仙台だけです。では、仙台と札幌を比較してみるとどうなのだという話があるかもしれないですが、場所の特性と数値をもう少し連動させながら比較していく、ただ、純付加価値額の値だけで見ていくこととは違うと思いました。

高等教育機関があることの経済的な波及効果を言ったときに、大事なものはM I C Eのことかと思っています。皆さん、札幌以外の方もよくご理解されていると思うのですけれど

も、札幌で学会をやると参加率がめちゃくちゃ高いわけです。ということは、宿泊にも影響します。それ前後の様々な会合、まつわる旅行にすごく影響を及ぼしているはずなのです。そういう掛け合わせで見ていくと、例えば、大学の集積の価値があるねとかないねというところが出てくると思います。

それから、札幌にそういうことが多いということは、大学だけではなくて、まちの良さを来る人が評価している、あるいは、その後に、他の北海道の都市に周遊したいと考える人たちが多いのだと思います。利便性が高い、アクセスしやすい状況にある、なしというところを、もう少し原因と数値をきちんと分析するような、単純に評価指標やモニタリング指標と書いてあるのではなくて、それを使って何を分析しようとしているのかをはっきりさせておいたほうがいいと思います。

○村木座長

最終的に出た数字をどう分析して、どう見ていくのか、このあたりの重要性はただの数字だけではないということを言われたと思います。

このあたりは、行政のつくられる計画の中で、担当の方が代わられると、そこをどうやって伝えていくのかも大事だと思うので、出口をどう説明するのもすごく大事なところとお伺いしながら思ったところです。

○小篠委員

もう一つ言い忘れましたけれども、比較のためには他都市で持っている指標と比較することもすごく大事ですが、札幌の特徴を表す指標をつくっていくことも検討したほうがいいと思います。というのは、これまでの都心部の動きというのが20年もたてば変わってくるわけです。その変わってくる影響を一番受けるのは、多分、大都市の札幌ではないかという予測が立つわけです。そうしたときに、では、誰が使うのか、どういう動きが起きるのかをいち早く察知して、それに対して対応するようなまちづくりを考えていくことは絶対必要です。それは、期間の途中でもいいから、これをモニタリングしていこうねという体制をつくっていくことも必要ではないかと思います。

○村木座長

札幌の良さを説明する指標、そしてそれをどう使うかも含めて、重たい宿題をいただいたと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○井上委員

三菱地所の井上です。

成果指標に関して、目標1については、皆様からもご意見ございましたけれども、純付加価値額が総量的に成長するという意味ではいいと思うのですが、やはり成長の仕方だと思うのです。発言がございましたけれども、多様なとか新たなというところでどういうふうに評価し得るものがあるのかというところは、もう少し検討していただければと思います。

それから、目標2は、交通量や満足度というところだと思いますけれども、交通量はともかくとして、満足度をはかるのは非常に難しいです。それを定量化するというのはまだまだ難しく、丸の内でも難しいと思っていますが、単なるアンケート調査だけだと難しく、ふだんのその人たちの行動からそういったものをどうはかれるかが一つ大事なかなと思っています。

例えば、Marunouchi Street Parkといって、ある一定期間、道路を閉鎖して歩行者専用にするのですけれども、そうすると、明らかに歩行者の歩行速度が遅くなるのです。皆さんはゆっくり歩くようになるのです。そういったところをどういうふうにはかれるのか、そもそも、そこが満足度につながっているのかどうかということもあるのですけれども、そういうことまではかると、こういう目標が本当に達成できているのかが見えてくるはずなのです。これが単なるアンケート調査だけではなくて、もう少しDXの活用の仕方を考えたほうがいいと思います。そこには、当然、投資も必要ですし、いわゆるスマートシティの観点で、どういうふうに情報を収集して、それをどう活用するかということも含めて考えたほうがいいのではないかと思います。

あとは、後半に、どういうところで重点的にそれを進めていくかとあると思うのですが、そういったものがうまく機能しているのか、働いているのかどうかを見られるような成果指標があると、前半と後半がうまく連動して、その目標は達成できているのかが一つ分かるのではないかという感じがしました。

○村木座長

DXの活用という言葉もありましたが、都心がすごく広いというところからからすると、新しいデータを取っていくところに優先順位をつけていくということも本当は考えていく必要があると思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○後藤委員

URの後藤です。

私も、事前に送られてきた計画を拝見して、成果指標が一つの数字でぴしっと表されているのは、とても分かりやすく、市民にとってもすごくインパクトがあるのだろうな、すばらしいなと思ったのですけれども、今のお話を聞いていると、一つの数字、あるいは二つの数字では、インパクトがあり過ぎて誤解を招くこともあるのだなと、私も目からうろこでした。

ですから、今日の資料でも上げられていますように、モニタリング指標や活動指標を総合的に見ているということを市民や計画書を見る皆さんにいかに分かりやすく伝えるか、色々な数字を見ますよという伝え方がすごく大事だと思っているところです。

ともすると、インパクトのある成果指標の数字だけに着目されてしまって、メディアにもどんと載りそうではないですか。変に意見が出るということにならないように、パブコメまでの間には少しご配慮、工夫をされたらよろしいと思いました。

目標１の付加価値ですけれども、もう一つ思いついたのは、付加価値が都心で生まれて、そこのお金というか、富が流出せずにまた札幌都心に戻って再投資される、成長し続けるという書き方を目標にされていたと思うのです。好循環と書いていますが、付加価値が循環しているのかが捉えられるような指標があれば、モニタリングで見いただければいいのではないかと思います。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○渡邊委員

皆さんの意見を聞いて、さらに、それ以外のところで、私は、商工会議所の都市・交通委員会の担当という立ち位置からお話をさせていただきます。

楽しくて、交流ができてという素晴らしいまちづくり、都心をつくったとしても、使いやすさがなければいけないと思います。使いやすさの視点というか、指標は、やはり観光客の方ももちろん大切ですが、やはり札幌都心は札幌市民がとても喜ぶ、利用のしやすいところという位置付けにすると、今、市民全体が都心にどれだけ来やすいか、まさに路線バスもどんどん減便されて大きな問題になっています。

ただ、そういったところの利用率と言いながら、私ども都市・交通委員会としては、都心だけではなくて副都心をたくさんつくって、そこで大体の生活は終わるのだということも提案しているのです。

つまり、その辺は交通の渋滞にも関わってきて、札幌は道が広いと言われてはいますが、冬になると渋滞が大変ひどいです。実は、最近では都心部で工事が多くて、大型車両の工事車両がずっと道路を占有しているということもありまして、歩きやすいとか、歩いて楽しいといっても、大型トラックが占拠しているようでは、そういうことにはなかなかならないわけです。ほかの政令指定都市は雪が少ないから渋滞率は少ないのかもしれませんが、使い方によっては、都心に直接ではないけれども、利便性を高めることでより良い都心になる可能性は大だと思っております。

実は、ここからは宣伝になるのですが、私ども都市・交通委員会としては、横断で共通でプラスになる自律分散型交通システムというものを推奨しております。今の時間制限されてる信号にカメラをつけて、分かりやすいように言うと、人も車も来ないのに赤信号で止まっていることはやめようよ、それを一本一本の信号機が周辺１０基の信号と相談しながら信号を変えていくということを推奨しております。

実は、これは車もそうですけれども、歩いている歩行者にとっても、どこからも車が来ないのにずっと待っている、今日みたいな雨が降っているときは非常に不快になるのです。ですから、車が来なければその辺のバランスを考えて、すいすいと歩けるようになれば、これはきっと楽しいまち歩きになるのではないかとということと、車も制御できるのであれば、二酸化炭素の排出にも大いに貢献できると考えております。

なおかつ、さらにもう一歩進むと、交通事故死ゼロのまちがつくれます。歩行者ももち

ろんカメラで見えていますので、今は車椅子で渡り切れない方がまだいるにもかかわらず信号が変わるのですけれども、自律型交通信号システムになりますと、その方が歩道に上がるまで絶対に青信号にはしないということになるのです。これは、もうアメリカのピッツバーグや中国の杭州でも実際に実験都市をつくって、しっかり成果が出ているのです。

目指すのは交通事故死ゼロというまちですけれども、そういうことが基盤の目である札幌のまちはベストフィットするまち並みなのです。20年後となると自動運転になります。自動運転になると、そういうシステムで絶対必要になる、不可欠になるシステムですから、ハードなまちづくりはもちろんですけれども、そういったシステムを使うことで、非常にすばらしいまちづくりができるという宣伝というか、周りに色々紹介しながら賛同を求めているところです。

目標1と目標2と目標3が全部果たせるということですが、ぜひそういったところも含みながら、また、それに合うような指標を考えていただきながら、そういう社会を目指していくようなまちづくり、本当にそれをやると世界が憧れるまちになると思うので、ぜひ参考にいただければと思います。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○高野委員

資料の8ページの目標2のモニタリング指標ですが、これは第一部会でも同じ発言をしたのですけれども、念のためにご発言します。

この歩きやすさというところはバリアフリーと接続ビル数だけですけれども、やはり重要なのは自転車が歩道に進入してきて自転車と歩行者が衝突するということですから、自転車の混入率という数字でもいいですし、安心して歩道を歩ける、自転車からフリーになるということはぜひモニタリング指標に入れていただきたいと思います。

やはり、他都市では歩行者と自転車の分離が進んでいるまちも多くなってきているので、そこもモニタリングしていかないと、いつまでたっても自転車を注意しながら歩かなければいけないという現状が直っていきませんよね。

道交法の運用が変わるので、どういうふうになるのか、期待するところですが、やはりモニタリングが重要だと思いますので、忘れないで入れていただきたいと思います。

○村木座長

今いただいたような新しいデータや、先ほど渡邊委員からご指摘のあった話はDXとも関係してくるはずですから、その辺の導入をどうしていくかということも関係すると思います。

時間が押しているので、もう一つの論点についてもご意見いただきたいと思います。

もう一つは、重点施策ということで、重点的に取り進める取組についてということで、17ページ以降に重点的に進めることが書かれていますが、取組を進めるに当たって重視する考え方、重点1から重点3について不足している視点がないか、いかがでしょうか。

○内川委員

第5章の位置付けについて、ご説明いただいたかもしれないのですが、もう一回確認いたします。

第5章の18ページの重点的に進める取組で、これからの更新、新たな開発に向けての取組を進めていくために重視する考え方という整理をしているのですが、その後の個別の重点的に進める取組と説明の文章があまり連動していないというのがぱっと見た印象としてあります。必ずしも開発だけではないので、重点的に進める取組のところに開発だけではない取組のことも書いてあったりもするので、そこの考え方をもう一回ご説明をいただきたいと思いました。

あとは、個別の取組のところに線を出して説明書きをいただいているのですけれども、これが「ひと」「ゆき」「みどり」に連動していることとあっていて、ふだんは開発ではなくて札幌大通まちづくり株式会社やさっぽろ下町づくり社のようにソフトな事業をやっている側からすると、そこのあたりの説明が何かもう一言あっていいと思いました。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

今おっしゃっていただいたとおり、表現が開発に寄り過ぎていて感じました。意図としては、開発をしていただくときにこういったところに注目、着眼をしていただきたいという表現をしたつもりですし、その中に、開発後の活用も踏まえて、沿道と一体に空間形成をしていただいたり、その後の活用のお話、例えば、20ページ目のスライドにありますエリアのまちづくりや社会実験のお話も盛り込んだつもりですが、今いただいたご意見を踏まえまして、もう少し表現に偏りのないようにしていければと思いました。

2点目のお話はご指摘のとおりですが、23ページ目以降の図から線が引いてあるものは「ひと」「ゆき」「みどり」ごとに大まかに分類をしたものですが、ここも本書にしていくときには分かりやすく表現していければと考えております。

○内川委員

それを書き加えていただけるといいと思いました。

今回、もともとの都心まちづくり計画とエネルギーの計画が合体するというので、そうなってくると、重点的に進める各取組のエリアでのエネルギーの要素が控えめな書き方だと思っています。エリアとエネルギーがちゃんとつながっているというのが今回の新たな都心まちづくり計画の売りにもなると思ったので、これからまだ書き加えられていくと思うので、その視点を持っていただけたらいいなと思いました。

○村木座長

出だしのところで説明されているけれども、資料5-1の18ページから後ろにエネルギーの話は出てこなくて、21ページから後ろというのは、今までの都心まちづくり計画にかなりアップデートされている色彩が強いので、そこを重点のところにとどのように記載していくのかということとも関係すると思うので、もう少し検討が必要と感じますね。

ほかはいかがでしょうか。

○高野委員

これは第一部会の宣伝になるのですけれども、参考資料の４６ページ、４７ページ、４８ページは、このパースは具体的にどこということではないですが、イメージとして、こういうものにしていきたいというものが集約されて表現されているので、見ていただきたいと思います。

例えば、今出ている４６ページの図ですと、従前は片側２車線であつただろう道を車線１車線にして歩道を広げ、なおかつ、自転車がその路側を走っているという状況です。これは第一部会でも色々異論も出たわけでございますけれども、一応、冬は４７ページ、それから、秋の夕暮れは４８ページというイメージを持ってやっています。

こういうものをやっているという説明がなかったので、見てくださいという宣伝です。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○東委員

資料に触れられているところが少ないと思うのは、一つは、特に札幌駅周辺といいますか、駅の北側にある北海道大学との接点、連携です。先ほど、若年層の流出という話もございましたし、これは北海道大学に限らなくてもいいのですけれども、学生や教授陣の持つバイタリティーや知見、人材を、これからの札幌都心部、札幌市全域のまちづくりに活用していけないと、やはり、なかなか活力が出てこないのではないかと思います。やはり、大学近接型のまちづくりとまでは言わないにしても、活性化する拠点、整備する方向性を、学内を特区にしてもいいと思うのですが、大学を中心としたまちの広げ方や活性の仕方をもう少しにじませたほうがいいと思います。

もちろん、都心がこのひし形のエリアだということは伺っていますので、ひし形の左上の方向だけになってしまうのですけれども、駅周辺をどう位置付けるかも踏まえて、少し考えていく必要があるのではないかと考えております。

それから、先ほど、井上委員からもご指摘があつたのですけれども、ＤＸをどう活用していくのかだと思います。さっきはアンケートで触れられておられましたけれども、ＤＸをどういうふうにもちづくりに使っていくのかがあまり触れられていないので、そちらについて言及していただけるといいと思います。

例えば、私どもの不動産関係の事例で言いますと、ＡＩの進化で、今後はコールセンター事業が急速に縮小していくのが予見されつつある時代になってきてまして、この２０年、札幌のオフィス需要を支えてきた基盤が徐々に減っていくという可能性も十分考えられております。それに代わって、先端半導体の設計、製造を支える人たちの拠点が整備される可能性はもちろんあるのですけれども、やはり、昨今のＡＩのすごい進歩の仕方を目の当たりにするにつけ、景色はガラッと変わるので、やはり安定的に人が流入してくるというのは、大学であつたり、高等教育機関であつたりするので、そういう人材やバイタリティーをどうやって活用していくか、それを考える必要があると思っております。

それから、重点的に進める取組が3点掲げられておりまして、これについては私も読んでいて全くこのとおりだと思っているのですけれども、市役所のお立場として書きづらいのだろうと思ったのは、(1)大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺では、札幌市のアイコンであるテレビ塔と大通公園のそばにある市庁舎があのままだと心もとないところもあります。今後、色々検討されるのであれば、やはり、23ページの進め方に書いてあるような、市民の方が行ってみたくなるような市庁舎、あるいは、公園と連結しているような市庁舎というふうになっていけばいいと思います。大通・創世交流拠点については、そういうことが期待されていますし、これは、もちろん観光にも優位に働くと思います。

大通公園西展開拠点や中島公園駅周辺展開拠点は、色々な歴史的な資源もそれなりにありますので、そのまま生かしながら、観光拠点やMICE拠点とするのがいいと思います。MICE会場の近くに歴史的な建築物があると、ホスピタリティプログラムというMICEに参加するご家族の方の接待拠点としても有用なので、そういう活用の仕方をご検討いただければと思っています。

○村木座長

ひし形にこだわると北大が入らなくなるのですけれども、大学が近接しているということをもう少し都心として受け止めたらいいいのではないかという極めて重要な点をご指摘いただいたと思います。

前半の議論でもあった人材の流出という観点からも、色々なバックグラウンドを持っている学生を含めて、それをどうやって都心で受け止めていくのかというのは、海外だとどういった人材がいるのかということで次のビジネスを結構考えるので、そこのあたりをもう少し考えてもいいという気もしました。

ほかはいかがでしょうか。

○榎本委員

20ページの取組を進める際のポイント三つというのがすごくいいと思うのですけれども、これ以降の第5章ではあまりポイントが言及されないもので、少しでもいいので、「ひと」「ゆき」「みどり」との重なりも明記してほしいと思います。表現しにくいかなと思うのですけれども、例えば、重点にする理由、狙いみたいところに、ポイントごとに書いていく工夫があってもいいと思うというのが1点です。

もう一点は、重点的に取り組むところの第5章もそうですが、この附属資料の第4章や取組の方向のところも役割分担が不明確というか、読み方によっては、札幌市がこれを行いますという宣言に見えなくもないのですが、一方で、札幌の都心のこれまでのまちづくりは、エリアマネジメントの活動がほかの都市と比較しても非常に高い価値ではないかと思っています。今後も新しいエリアマネジメントを創生するというのが後ろの附属資料の第6章にも書かれていたかと思っています。エリアマネジメントの既存の団体、市民、民間企業との役割分担も第5章や第4章に書かれてもいいと思いました。

○村木座長

重要なご指摘ですね。

地図上で軸とモードを書くことを超えて全体的にどうしていくのかをもう少し入れたほうがいいということかと思いますが、ほかはいかがでしょうか。

私が気がついたのは、今、榎本委員からも言われましたことですが、20ページで書かれていることが後ろにつながらないということで一つ思ったのは、突然出てきた既存ストック活用というのは分かりにくいと思います。これはエネルギーとも関係しますが、多分、既存のものは排出量がかなり大きいので、既存ストックの活用をどうしていくのかということからすると、もう少し違う視点で考えていかなければいけないと思います。

ほかはいかがですか。

○草野オブザーバー

目標の議論に戻ってしまうのですが、目標2の回遊性を捕捉する指標、回遊、まち巡りのところで、指標として歩行者メインとなっているところについて、委員の方から意見がありましたけれども、私も自転車やほかのモビリティーにも着目する必要があるのではないかと考えていたところです。

延期にはなっていますが、やがて北海道新幹線が札幌に来ると。札幌に来た後に、どう都心に行くのかを考えると、歩行者がメインかもしれないですが、ほかの選択肢、自転車、公共交通のバスなど使って来られるというところも先を見据えて考えなければいけないと思いました。

資料の中で拠点の整備とありましたが、交通結節点や拠点の整備に着目するというのは池ノ上委員もおっしゃっていたと思うのですが、それはそのとおりかと思っています。

また、渡邊委員からも、外から来た人だけではなくて、市内の人たちがいかに使いやすい拠点にするかということも重要だと思っていますので、例えば、バス停をいかに使いやすいように改善していくかも着目していく必要があると思ったところです。

その中で、拠点の整備の場所が書かれているのですが、これがどのようなイメージで整備されるかが資料では分からなかったもので、これからイメージ図を作成されればもっと議論が深まると思いました。もしかしたら、第一部会でかなり議論されているかもしれないですが、今後の議論に期待したいところです。

○村木座長

ほかはいかがでしょう。

○小篠委員

先ほどの大学との関係ですが、私も全く一緒の意見です。

そして、その論点が都心の縁辺をどう考えていくのかという話につながると思いました。今、ひし形の都心と最初から規定しているものがあるわけですが、ある意味、リーズナブルなひし形である部分もありますが、要は、北大のように都心に影響を及ぼす拠点が隣接して存在しているのであれば、そことの関係はより強化していこうという書きぶり

になっていても構わないと思うわけです。

もう一つは、今度はひし形の右側ですけれども、体育館の跡にDXの水素ステーションができてみたり、その周辺に新エネルギーを使った施設の導入というのは既に具体化されようとしています。ですから、あそこも都心まちづくり計画を実現するためのモデルとして、今までとは位置付けが変わってくるわけです。

ここもぎりぎりひし形の縁辺に入っていて、そういうところは積極的に今回の都心まちづくり計画の中で位置付けていってもいいのではないかと、この2か所は入っていてもいいのではないかと思います。

○村木座長

今までの計画づくりとは別のところで、北大の位置付け、それから、新しいことは開発がそこまで進んでいないところで起きたりするので、その位置付けをどうするか、実験的なものはショーケースにもなり得るので、そこでやった実験がほかで展開していくことにもなるのかもしれないので、そういう大事なものについても何らかの形で検討していくことが必要ではないか、そういうことかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

事務局から、今まで伺っていて何かありませんか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

多くのご意見をありがとうございます。

大学との連携や周辺の拠点との連携等については、我々も考慮しなければいけないと考えておりますので、記載につきましては、次回お示しする予定の素案の中でこういった示し方ができるのか、考えていきたいと思います。

また、そのほかにいただいている意見も踏まえまして、次回の素案に反映し、また皆様方にお示しできればと思いますので、次回の議論をよろしくお願いいたします。

○村木座長

最後に、全体を通して、言い足りないところあったらお伺いしたいと思いますが、いかがですか。

○井上委員

20ページの三つの重視する考え方という話があったと思います。21ページ以降は、エリアをどう捉えるか、どこでエリアでどういうことをやっていきたいという話だと思うのですが、20ページの話は、それぞれのエリアに関して、では、それをどういうふう to 実現していくのかというある意味手法や手段の考え方だと思うのです。

ですから、それぞれのエリアで3点なら3点をどう使っていくと、こういったところがより早く、より適切に実行されていくのかを少しイメージする別の切り口になると思います。

全部にやる必要はないかもしれませんが、こういう中心部の都心強化先導エリアみたいなところで、この三つをどう組み合わせる to 実現に持っていくのか、そういう

事例があると、重視する考え方をどういうふうに使えばいいのかが分かりやすく示されると思います。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○村木座長

重点のところは、地図上で示される以外のこともあるので、書き方も含めて少し考えてみる必要があるという気もします。

ほかにないようでしたら、本日の検討会は終了したいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

村木座長、ありがとうございました。

また、本日、多くの意見を委員の皆様、また、オブザーバーの皆様から頂戴しました。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

議事録につきましては、皆様に内容をご確認いただきました上で、後日、ホームページにて公開をさせていただきたいと思います。

次回の検討会につきましては、現在、9月30日火曜日を軸に委員の皆様に日程調整をさせていただいておりますが、確定次第、改めてご案内をさせていただきたいと思いますので、その点もよろしくお願いします。

それでは、長時間にわたりまして、ありがとうございました。

本日は、以上で閉会させていただきます。

以 上